

# 令和6年度 事業報告書

(令和6年4月1日～令和7年3月31日)

学校法人 上野学園

令和6年度 事業報告書

## I 法人の概要

### 1 基本情報

#### (1) 法人の名称

学校法人 上野学園

#### (2) 所在地

住所 〒110-8642 東京都台東区東上野 4-24-12

電話番号 03-3842-1021

ホームページアドレス [https://www.uenogakuen.ac.jp/junior\\_college/](https://www.uenogakuen.ac.jp/junior_college/)

### 2 建学の精神

上野学園は建学の精神を「自覚」と定めている。「自覚」とは、自己を深く見つめ、これを内面から知る体験であり、自己の真の価値に目覚めることでもある。まずはこれを求める心を自ら養うことが重要であり、さらに、「自覚」を求めることは、一生の課題でなければならない。

この建学の精神を現在に活かしながら、しかも次の世代へと引き継いでいくことが、本学園の教育の理想であり、この普遍的精神を持つことによって、上野学園独自の学風と伝統が形成されてきた。

自己を時代に活かすために必要不可欠な要素が、自由な精神であり、「自覚」である。

### 3 設置する学校・学部・学科等

上野学園短期大学

音楽科

専攻科 音楽専攻

上野学園高等学校

全日制 普通科 特別進学コース

総合進学コース

全日制 音楽科 演奏家コース

器楽・声楽コース

上野学園中学校

アドヴァンスト・コース

プログレス・コース

国際コース

### 4 学校・学部・学科等の学生・生徒数 (令和6年5月1日現在)

| 学校       | 学部・学科等 | 入学定員 | 収容定員 | 入学者数 | 在籍者数 |
|----------|--------|------|------|------|------|
| 上野学園短期大学 | 音楽科    | 50   | 100  | 27   | 61   |
| 上野学園高等学校 | 普通科    | 160  | 480  | 160  | 478  |
|          | 音楽科    |      |      | 0    | 9    |

|         |  |     |     |     |     |
|---------|--|-----|-----|-----|-----|
| 上野学園中学校 |  | 80  | 240 | 48  | 135 |
| 合 計     |  | 290 | 920 | 239 | 721 |

## 5 役員等の概要（令和6年5月1日現在）

理事の定数 5～7名 現定数 6名

監事の定数 2～3名 現定数 2名

| 役 職 | 氏 名           |
|-----|---------------|
| 理事長 | 石橋 香苗         |
| 理 事 | ジャン＝フランソワ・ミニエ |
| 理 事 | 江幡 亜木         |
| 理 事 | 松平 恒和         |
| 理 事 | 土屋 正孝         |
| 理 事 | 石橋 慶晴         |
| 監 事 | 鈴木 達也         |
| 監 事 | 高木 充利         |

役員賠償責任保険契約の状況

日本私立短期大学協会役員賠償責任保険に継続加入している。

責任の免除・責任限定契約

本学園寄附行為第42条責任の免除、第43条責任限定契約に記載している。

評議員の定数 13～17名 現定数 15名

| 役 職 | 氏 名           |
|-----|---------------|
| 評議員 | 石橋 香苗         |
| 評議員 | ジャン＝フランソワ・ミニエ |
| 評議員 | 江幡 亜木         |
| 評議員 | 松平 恒和         |
| 評議員 | 土屋 正孝         |
| 評議員 | 石橋 慶晴         |
| 評議員 | 吉田 亘          |
| 評議員 | 小泉 則子         |

|     |        |
|-----|--------|
| 評議員 | 梅谷 令子  |
| 評議員 | 北代 美和子 |
| 評議員 | 杉元 葉子  |
| 評議員 | 高橋 公三子 |
| 評議員 | 北村 浩志  |
| 評議員 | 前田 幸康  |
| 評議員 | 飯島 和久  |

## 6 教職員構成、人員数（令和6年5月1日現在）

| 教員／事務職員     | 専任 | 非常勤 | 合計  |
|-------------|----|-----|-----|
| 上野学園大学短期大学部 | 8  | 38  | 46  |
| 上野学園高等学校    | 53 | 66  | 119 |
| 上野学園中学校     |    |     |     |
| 事務職員        | 27 | 12  | 39  |
| 合計          | 88 | 116 | 204 |

※学校基本調査に記載している人数に基づく。

## 7 上野学園の沿革

- 1904年11月 建学の精神を「自覚」として、石橋藏五郎が私立上野女学校を創立  
(下谷区上野桜木町2番地)
- 1910年9月 財団法人私立上野高等女学校認可
- 1912年10月 浅草区神吉町46番地(現台東区東上野4丁目)に移転
- 1913年4月 私立上野実習女学校を設置
- 1914年11月 私立上野実習女学校を、私立上野家政女学校に改称(1945年廃止)
- 1946年4月 上野女子高等学院(文化科・家政科)を設置  
上野高等女学校専攻科(英語科・被服科)を設置  
財団法人上野学園に改称  
上野高等女学校が東京都の音楽研究指定校となる
- 1947年4月 上野学園中学校を設置(学校教育法実施により上野高等女学校および同専攻科は上野学園中学校・上野学園高等学校に改組。高等学校は翌年に設置される)
- 1949年4月 上野学園高等学校に全国初の音楽科を設置  
上野学園高等学校別科を設置
- 1951年3月 学校法人上野学園に変更
- 1952年4月 石橋益恵、学長に就任  
上野女子高等学院を廃止
- 1956年4月 短期大学家政科を設置(2006年廃止)
- 1958年4月 上野学園大学開学、音楽学部器楽学科・声楽学科・音楽教育学科を設置

- 石橋益恵、学長に就任
- 1959年3月 短期大学音楽科を発展的に解消
- 1961年3月 上野学園家政高等学院が上野学園草加高等学校に改組
- 1963年4月 大学音楽学部器楽学科に日本初のチェンバロ専門、音楽教育学科に音楽学専門を開設
- 1963年10月 大学音楽学部、日本音楽史料の組織的収集に着手
- 1964年4月 石橋藏五郎逝去
- 1964年6月 石橋益恵、理事長に就任
- 1966年4月 大学音楽専攻科（音楽教育専攻・器楽専攻・声楽専攻）を設置  
短期大学音楽科を再設置（埼玉県草加市）
- 1968年4月 短期大学専攻科（音楽専攻）を設置
- 1969年4月 大学音楽学部器楽学科に日本初のリュート、ヴィオラ・ダ・ガンバ、リコーダーの各専門を開設
- 1970年4月 大学音楽専攻科の音楽教育専攻を音楽学専攻に改称
- 1971年4月 大学音楽学部器楽学科に日本初のギター専門を開設
- 1973年4月 研究施設、上野学園日本音楽資料室を創設
- 1974年11月 創立70周年記念講堂（石橋メモリアルホール）竣工
- 1981年4月 石橋益恵、学園長に就任  
石橋裕、上野学園大学および上野学園短期大学長に就任
- 1985年4月 短期大学家政科を草加キャンパスに移転、短期大学を集約し、名称を上野学園大学短期大学部に改称  
短期大学部人文学科（英語専攻・文化専攻）を設置
- 1992年2月 石橋益恵逝去
- 1992年3月 石橋裕、理事長に就任
- 1992年4月 上野学園大学短期大学部専攻科国際文化専攻設置
- 1995年4月 短期大学部人文学科を大学国際文化学部へ改組転換、英語と英国・アイルランド文化コース、スペイン語とイベリア、ラテン・アメリカ文化コース設置
- 1996年3月 国際文化学部への改組転換により、短大部人文学科廃止
- 2000年4月 短期大学部音楽科に音楽療法士養成教育課程を開講
- 2004年4月 上野学園大学音楽・文化学部を設置（音楽学部と国際文化学部を統合）  
音楽・文化学部音楽学科に演奏家課程を設置
- 2004年11月 創立100周年記念式典挙行
- 2005年4月 大学演奏家課程を演奏家コースに改称  
高等学校音楽科に演奏家コースと器楽・声楽コースを設置  
大学音楽・文化学部国際文化学科、短期大学部音楽科、家政科、上野キャンパスへ移転
- 2006年10月 日本音楽資料室を上野学園大学日本音楽史研究所に改称
- 2007年4月 石橋裕、学園長に就任  
石橋慶晴、理事長に就任  
上野学園大学・同短期大学部、上野学園中学校・高等学校を男女共学化  
高等学校普通科に特別進学コースと総合進学コースを設置  
創立100周年記念事業として新校舎竣工
- 2007年9月 上野学園楽器展示室を開室し、上野学園所蔵の古楽器を公開

2007年10月 上野学園大学日本音楽史研究所を草加キャンパスに移転  
 2009年4月 原田禎夫、上野学園大学・同短期大学部学長代行に就任  
 2010年2月 新講堂（上野学園 石橋メモリアルホール）竣工  
 2010年3月 大学音楽・文化学部国際文化学科廃止  
 2010年4月 大学音楽・文化学部を音楽学部へ改称  
 上野学園大学日本音楽史研究所が大学附置研究所となる  
 高等学校普通科に特別進学コース $\alpha$ ・ $\beta$ を設置  
 2010年5月 音楽文化研究センターを大学音楽学部の附属機関として設置  
 2011年4月 石橋裕、上野学園大学名誉学長の称号を授与される  
 前田昭雄、上野学園大学学長に就任  
 2014年9月 石橋慶晴、上野学園大学短期大学部学長に就任  
 2014年11月 創立110周年記念式典挙行  
 2015年4月 ミュージック・リサーチ・コースをグローバル教養コースへ改称  
 グローバル教養コースに文化創造マネジメント専門を開設  
 船山信子、上野学園大学学長に就任  
 中学校音楽コース、普通コースをアドヴァンスト・コースとプログレス・コースへ改編  
 高橋公三子、上野学園中学校・高等学校校長に就任  
 2015年12月 上野学園大学日本音楽史研究所を上野キャンパスに移転  
 2016年4月 上野学園高等学校との連携プログラムを施行  
 2016年6月 石橋香苗、学校法人上野学園理事長に就任  
 2017年1月 石橋裕学園長逝去  
 2017年4月 皆川弘至、上野学園大学学長に就任  
 石橋香苗、上野学園大学短期大学部学長に就任  
 2019年4月 前田昭雄、上野学園大学学長に就任  
 2020年4月 吉田亘、上野学園中学校・高等学校校長に就任  
 2022年4月 上野学園大学短期大学部専攻科が独立行政法人大学改革支援・学位授与機構の認定を受ける  
 2023年6月 上野学園がケンブリッジインターナショナル認定校となる  
 2024年2月 上野学園中学校国際コースが文部科学省より教育課程特例校に指定される  
 2024年4月 上野学園大学短期大学部を上野学園短期大学へ名称変更  
 2024年4月 上野学園中学校国際コース開設

## II 事業の概要

### <学園全体>

令和6年度に創立120年を迎えた上野学園が、永きにわたり培ってきた音楽教育を特徴として、自ら考える力、真の教養と長けた創造力、国際的な視野を持ち合わせたリーダーを育てていくこと、生徒・学生が自立して社会で活躍できる人材となることを学園のミッションとする。

令和6年度も引き続き、「Revalue 再び価値を見直す」「Cross-sectional 横断的な豊かな学び・研究」の視点から、教学、法人面における精査、改善を実施した。

まず「Revalue」においては、1) 伝統校として培った教育のノウハウ、知的財産を活かした特色のある学びを新たに打ち出していくこと、2) 特色ある学びに基づく一貫教育の充実に向けて環境を整備すること、3) 法人においては、引き続き業務改善に取り組むことに加えて、業務の効率化に向けて抜本的な見直しを行うことに取り組んだ。

次に「Cross-sectional」においては、1) コースに限ることのない、横断的かつ多角的な学びの実現のための教養科目と選択科目を充実させること、2) 実技面における多角的な学びを充実させること、3) 日本と海外との交流、海外留学・研修制度を充実させるための計画、4) 地域連携の促進を実施していくことに取り組んだ。

### 主な教育・研究の概要

#### 1) 3つのポリシーに基づく教育の質保証

上野学園短期大学では、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーの3つのポリシーに基づき、教育の質保証に取り組んでいる。学位授与に必要な知識、技能を明確に示し、それに沿ったカリキュラムを整備するとともに学習成果の可視化を行うことで、教育課程の効果を検証している。

##### ① ディプロマ・ポリシー「卒業認定・学位授与の方針」

以下の要件を満たし、所定の62単位を取得した学生に短期大学士の学位を授与する。

- ・音楽芸術の学びを通して建学の精神「自覚」を会得していること。
- ・音楽の高い芸術性と表現力を理解していること。
- ・コミュニケーション・ツールとしての音楽を実践できること。
- ・社会人としての基礎力ならびに豊かな人間性、品格、教養、公共性を涵養していること。
- ・音楽芸術および文化的教養を身につけた上で、音楽分野に留まらず広く社会に貢献する意思と能力があること。

各専門の学位授与の方針は以下の通りである。

##### ピアノ専門

磨き上げた技術と豊かな人間性が表れる演奏ができていくこと。

##### 器楽専門

専門楽器の演奏者として、専門技術を会得し、探求心に溢れた演奏ができていくこと。

##### 声楽専門

「歌」についての技術と知識の習得に努めた演奏ができていくこと。

専攻科では、以下の要件を満たし、所定の62単位を取得した学生に修了証書を授与する。

- ・音楽の背景にある文化、社会、歴史を理解していること。

- ・理論と技能を通して音楽表現を探究できていること。
- ・教育現場やビジネスで展開できる主体的な課題解決スキルを備えていること。

## ② カリキュラム・ポリシー「教育課程編成・実施の方針」

学則第 1 条「音楽の知識と技能を授けること」を基盤とし、建学の精神「自覚」を踏まえて、以下の方針でカリキュラムを構築している。

- ・カリキュラムを通して全人格的な知を追求し、教養・基礎科目、外国語科目を専門教育科目と同等に重視する。
- ・専門実技の個人レッスンを、週 50 分と設定し、グループレッスンも導入している。
- ・試験、演奏会、オーディション等による演奏実践を行い、互いに切磋琢磨し、コミュニケーションする機会を設定している。
- ・1 年間に取得できる単位の上限を 46 単位（個人実技レッスンの単位を含む）と設定している。
- ・キャリア教育として、学修に必要な基本的スキルの習得と、社会人としての基礎力を作るために必要な知識と考え方を学ぶ「初年次プログラム」（1 年次生の必修科目）を設定している。
- ・教育職員免許状の取得を目指す学生のために、教職課程を設置している。
- ・音楽療法士の称号取得を目指す学生のために、音楽療法士養成教育課程を設置している。

各専門の教育課程編成・実施の方針は以下の通りである。

### ピアノ専門

個人レッスンおよびグループレッスンを中心に、「ピアノアンサンブル」「ピアノ伴奏法」「ピアノ伴奏法演習」では相手の音を聴き、互いの内なる心に対する感性を養う。

### 器楽専門

少人数制を活かし、第一線で活躍する教員が、基礎となる音、音階から、さらにその上のレベルに合わせたきめ細かな指導を行う。「器楽合奏」「ウィンド・アンサンブル」等の合奏授業を通して、積極性や協調性を育てる。

### 声楽専門

個人レッスンでは発声の基礎から歌唱法を研究し、「声楽特殊演習」では楽曲の音楽知識の習得を目指す。

専攻科では、ディプロマ・ポリシーにおける 3 つの資質、能力を身に付けるために、以下の方針で教育課程を編成する。

- ・一般教育科目に芸術の歴史、哲学、教育に関する科目を配置し、教養ある人材を育成する。
- ・専門教育科目に専門実技と各種アンサンブル科目を備え、実技に打ち込める環境を整えている。
- ・課題解決を通して社会参画するための実践的なアウトリーチ科目を配置している。

## ③ アドミッション・ポリシー「求める学生像と入学者受入れの方針」

上野学園短期大学の教育基本概念は、建学の精神「自覚」にある。これを基盤として、以下のような志のある学生を求めている。

- ・「自覚」の精神をもって、自らの感性と個性を大切にする人。
- ・2年間で、人間力を培い、社会に貢献する人。
- ・専攻科進学、大学3年次編入、留学を目指す人。
- ・中学校音楽科教員、音楽療法士（全国音楽療法士養成協議会）の資格取得を目指す人。
- ・音楽教室の教師を目指す等の音楽教育の裾野を広げる仕事に興味がある人。
- ・生涯学習として音楽を学び、生き甲斐のある生活を送る人。

各専門の求める学生像は以下の通りである。

#### ピアノ専門

バロック時代から近・現代の作曲家の作品をレパートリーにできる人。

#### 器楽専門

ルネサンス期から近・現代に至る幅広い時代の作品に積極的に取り組むことができる人。

#### 声楽専門

「声」という楽器を用いて、言葉（詩）と音楽の融合から生まれる「歌」を感動とともに伝えることのできる声楽教育を受けたい人。

入学者受入れ方針は以下の通りである。

#### ピアノ専門

事前に準備した曲を暗譜で演奏し、基礎的テクニック、構成力、表現力、感性、意欲等を総合的に判断する。

#### 器楽専門

入学試験では、音色、演奏技術、表現力、意欲等を総合的に審査する。

#### 声楽専門

イタリア古典歌曲を含む外国語または日本語による基本的な声楽曲を数曲、事前に学習し暗譜して歌い、その時点での歌唱力、資質、意欲等を総合的に審査する。

## 2) 中期的な計画及び事業計画の進捗・達成状況

中期計画及び令和6年度の事業計画については、PDCAサイクルに従い実施した。

令和6年度の事業計画の進捗・達成状況は下記のとおりである。

### <法人>

#### 1) 機関別認証評価の受審

上野学園短期大学は、令和6年6月に自己点検評価報告書を作成し、10月17日・18日の2日間、一般財団法人大学・短期大学基準協会による認証評価を受審した。その結果、「適格」と認定された。

今後とも、自己点検・評価及び認証評価の受審結果・指摘事項を踏まえ、今度の運営に活かしていくこととした。

#### 2) 組織運営強化の取り組み

- ① 今後の安定的な財政基盤の構築と、より充実した教育提供を目指し、円滑な運営を図ることを目的として、経営企画室が司る管理職による会議を定期的に開催し、各部門と連携の強化に努めた。

② 規則類の整備

令和6年度は、働き方改革への促進にむけ、就労に関する規則類を中心に整備を行った。

③ SD 研修

令和6年度は、次の通り SD 研修会を実施した。

・第1回 SD 研修会

日時：令和7年2月19日（水）9:00-10:00

場所：2階 会議室

テーマ：「事務職員 管理職研修」

対象：全管理職員

講師：塩原総務部人事課長

・第2回 SD 研修会

日時：令和7年3月18日（火）13:00-14:30

場所：10階 第1リハーサル室

テーマ：「教職員ハラスメント研修—職場におけるハラスメントを考える」

対象：短期大学の全教員および職員

講師：林陽子 顧問弁護士

3) 人事政策と経費の抑制

- ① 教職員の退館時間をより明確に設定し、業務効率化とあわせて教職員の時間外労働の抑制を図った。規制したことで、令和6年度はその効果が表れたと同時に、業務の効率化も行えていることが実証できた。
- ② 直近の決算書の分析をもとに、各部門において、必要とする経費の精査を行った。
- ③ 前年度の実績をもとに、各部門において、経費実行の精査を行い、経費全般の節減に努めた。
- ④ 月毎の光熱費の推移を確認しながら、空調や照明をこまめに入り切りする、教職員の退館時 間の奨励、夏季休業・冬季休業時の一斉休館期間を設ける等により、光熱費の削減に努めた。

4) 施設設備の整備 空調設備改修工事の実施

学修環境の整備のひとつとして、校舎建物の約6割の面積について空調設備の改修を行った。空調設備の改修にあたり、動力源の変更に伴う空調機器の入れ替えにより大幅なCO2削減が可能となり、東京都が推進する省エネ対策を押し進めることもできた。今後も優先順位に則り、計画的な設備の補修・改修等に取り組んでいく。

5) 安全管理の充実

消防計画に基づき、中高生・短大生による防災非難訓練を実施した。

## <短期大学>

### 広報活動の強化

令和6年度、高校生の学校選びの変化に対応するために、データや情報発信の整備を継続した。

新規ツールとして、①PR動画 ②社会人専用チラシ ③科目等履修生要項（音楽療法課程偏にともなう）④社会人ステップアップ講座 ⑤ほしぞらコンサートの新規実施を行った。

また、①音楽療法チラシ ②メリットチラシにおいては、更新版を作成、③音楽受験講習会においては、日数と実施時期を改編した。

効果としては、令和6年度の資料請求数は、前年比156%であった。

#### ① 公式SNS・オンラインツールの活用

X（旧twitter）、LINE、インスタグラムの運用を活用し、体験レッスン、個別相談、オンライン相談の申し込みに繋がった。

加えてWeb出願を導入し出願のしやすさと作業の効率化を図った。2025年度入学者の入試は、1名を除いて全てWeb出願を使用して行った。

#### ② 高校訪問の強化

令和6年度は、「おとどけレッスン」という形で出張指導に力を入れ、申込数は増加している。その後オープンキャンパスや講習会等にお申し込みをいただいた。たくさん的高校訪問をすることから質の良い訪問を行う方向へと変化している。

高校訪問では目的を明確にして①メリットを知っていただくこと ②指定校であることを知っていただくこと ③本学の情報を掲示していただくことを中心に訪問を行った。

#### ③ オープンキャンパス及びその他のイベント

オープンキャンパスの内容は、引き続きわかりやすく、納得のいく情報発信を意識し、令和6年度は、6回行った。アンケートでは「説明が分かりやすかった」とのコメントを多く頂いている。引き続きオープンキャンパスに来校した人すべてが上野学園の魅力を知ってお帰りいただくことを目標に運営を行った。

令和6年度の参加者は全体として前年比約125%であったが、既卒・高3の参加者は前年比150%、入学者は前年比141%となった。

また新しい受験層として、昨年からのオープンキャンパス来場者や受験者の中に存在する集団があり、社会人（25歳以上で社会経験者）ではないが、新規の高卒でもない志願者が一定数含まれるようになってきた。4年制大学を中途退学した者、4年制大学を卒業見込みの者、大学卒業後就職したが1-2年で本学受験を志望するグループ層。今年度入学者は4名ほどが該当し、オープンキャンパス来校者では更に多くの接触者があった。また今年度はいわゆる第二志望で本学に入学をしようとする受験生、実際に入学する受験生が昨年より多く見られた。4名ほどが検討し2名が入学をしている。このような傾向は昨年まではあまり見られなかった傾向といえる。本学の打ち出しているメリットが徐々にではあるが浸透している結果ととらえることができる。

## 教育研究

### 1) グループレッスンの取り組み

専門音楽実技においては個人レッスンに加え、グループレッスンも取り入れている。楽曲を仕上げ

る過程での工夫や課題を共有し、互いに意見交換やディスカッションを行うことで、多様な視点を取り入れながら思考を深める力を養っている。こうした学びの場を通じて、演奏の技術だけでなく、表現力や協働力、批判的思考力の向上も図った。

## 2) 認定専攻科

2年間の学修を通してより学びを深めたい意志をもつ学生が学修を継続できる環境を構築し、音楽における総合的な実践的能力を身に付け、学士の学位を取得し、キャリアの可能性を拓げるため、学位授与機構の認定を受けた専攻科を令和4年度に開設し、令和4年度は2名、令和5年度は3名、令和6年度には5名の入学があった。進学先の選択肢として定着し始めている。また学位授与機構の認定を受け、学士（音楽）の取得率は100%である。

## 3) 社会人学生

社会人学生の入学者数は安定しており、一定数の社会人学生が入学している。学び直しやキャリアアップのための資格取得、定年退職後の新たな学びなど、目的、バックグラウンドは様々であるが、自身の生活に沿った学びの形の実現のため履修上の助言を行い、リカレント教育を推進している。

| 年度            | 令和4年度 | 令和5年度 | 令和6年度 |
|---------------|-------|-------|-------|
| 社会人学生（人）      | 7     | 7     | 9     |
| 入学者数における割合（%） | 20    | 25    | 33.3  |

## 4) 長期履修学生制度

長期履修学生制度は、社会人学生の入学者数とともに並行して順調に一定数の入学生を得ている。職業を有している学生や家庭の事情を抱える者などそれぞれの生活に合わせながら、時間を有効活用した学修計画を立てるスタイルが定着している。

| 年度            | 令和4年度 | 令和5年度 | 令和6年度 |
|---------------|-------|-------|-------|
| 長期履修学生（人）     | 6     | 6     | 8     |
| 入学者数における割合（%） | 17.1  | 21.4  | 29.6  |

## 5) 吹奏楽指導者認定プログラム

部活動の地域移行により需要が見込まれる吹奏楽指導者を育成するため、吹奏楽指導者認定プログラムを令和5年度より実施した。このプログラムは実技だけでなく、「教育原理」と「法令順守と安全管理」を学び、教育者としての資質を身に付けることができる点が特徴となっている。

| 年度     | 令和5年度 | 令和6年度 |
|--------|-------|-------|
| 修了者（人） | 5     | 6     |

## 6) ボランティア活動

ボランティア演奏を通じて地域社会との連携を積極的に図っている。学生は地域の行事などでの演奏活動に主体的に参加し、実践的な学びの場にもなっている。

| 日付       | 内容                   | 会場          |
|----------|----------------------|-------------|
| 7月7日（日）  | 第37回下町七夕まつりへの参加      | かっぱ橋本通り     |
| 9月12日（木） | 社会教育センター<br>ロビーコンサート | 台東区社会教育センター |

## 7) 演奏活動

令和6年度に実施した短期大学主催・参加の演奏会は下記の通りである。

[令和6年度上野学園期大学主催・参加演奏会]

| 日付        | 演奏会                                                     | 会場                                                                  |
|-----------|---------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------|
| 10月4日(火)  | 上野の山文化ゾーンフェスティバル<br>No.8「古楽器との対話Ⅲ =弓の変遷=」               | 上野学園 楽器展示室                                                          |
| 10月22日(火) | 国際ハープフェスティバル 2024 - 草加市<br>上野学園短期大学スポットコンサート            | 井上美江子客員教授<br>井田美幸非常勤講師<br>飯島和久特任教授<br>上野学園ハープアンサンブル<br>上野学園管楽アンサンブル |
| 10月31日(木) | 第37回 定期演奏会                                              | 飛行船シアター                                                             |
| 2月13日(木)  | 第12回 ウィンド・アンサンブル定期演奏会                                   | 飛行船シアター                                                             |
| 3月4日(火)   | 短期大学音楽科卒業演奏会<br>・専攻科修了演奏会                               | 飛行船シアター                                                             |
| 3月20日(木)  | 上野学園短期大学による午後のコンサート・<br>シリーズ vol.1<br>- オーボエと声楽アンサンブル - | 台東区立旧東京音楽学校<br>奏楽堂                                                  |

ウィンド・アンサンブル定期演奏会は学生募集の一翼を担う演奏会でもあり、学園祭で開催したウィンド・アンサンブル発表会とも連動している。

## 9) 特別公開講座の実施

令和5年度に実施した特別公開講座は下記の通りである。

| 日付        | 内容                                   | 講師/演奏者              |
|-----------|--------------------------------------|---------------------|
| 6月24日(月)  | ヴァイオリンの可能性 バロック期<br>- J.S.バッハの作品から - | 池田雄彦客員教授<br>緒方恵客員教授 |
| 8月8日(木)   | 教員のための音楽講座                           | 櫻井茂客員研究員            |
| 9月9日(月)   | ヴァイオリンの可能性<br>- 古典派の作品から -           | 池田雄彦客員教授<br>緒方恵客員教授 |
| 11月25日(月) | ヴァイオリンの可能性<br>- ロマン派の作品から -          | 池田雄彦客員教授<br>緒方恵客員教授 |
| 12月25日(水) | 教員のための音楽講座 第2回                       | 櫻井茂客員研究員            |

## 10) FD活動

令和6年度は、次の研究会を実施した。

第18回 FD 研究会

日時 2月17日(月) 10:00～11:30

場 所 第1リハーサル室  
テーマ 合理的実技指導の在り方 ～スポーツ科学の視点から  
対 象 短期大学の全教員及び職員  
講 師 伊藤直木 (TSR スポーツクラブ トランポリンスクール事業部長)

#### 第19回FD研究会

日 時 2月19日(水) 11:00～12:30  
場 所 第1リハーサル室  
テーマ 音楽様式と演奏表現の在り方  
対 象 短期大学の全教員及び職員  
講 師 倉地恵子准教授

### 1.1) IR活動

IR委員会の主導により、入学時の期待感や卒業時の達成度、在学中の学修時間に関する定期的なアンケート調査を体系的に実施している。これにより学生の成長実感や教育効果を継続的に可視化する仕組みが確立されている。これらのデータは、教育の質保証および改善に資するエビデンスとして活用されている。

### 1.2) 日本音楽史研究所の事業

#### ○一般業務

史料の収集・維持(保存・修繕・調整)／史料調査・研究／史料閲覧(寄託中の史料もあるため、限定的に閲覧受付)／研究年報『日本音楽史研究』等編集・執筆／史料複写、掲載等の申請受付

#### ○調査研究

- ・12世紀の楽人111人の事績のデータ集積(『楽人補任上巻』収載分)。
- ・研究年報『日本音楽史研究』第9・10合併号刊行(PDFデータ化完了)。令和7年度に印刷製本、短大ホームページにて公開予定。
- ・架蔵の声明史料調査。

### 1.3) 就職支援：キャリア支援センター

#### ① 就職支援の取り組み

一般企業への就職支援、音楽能力を活かした進路への支援等、学生の職業選択の幅を広げるキャリア形成を展開している。卒業生の進路状況は適宜、職員・教員間で情報を共有し、メール・電話・対面・オンラインなど多様な手段を活用して、きめ細やかな相談、支援体制を整備した。

#### ② キャリアカウンセラーの配置と個別指導の強化

キャリアコンサルタント有資格者による1年次生全員個別面談を実施し、入学直後から学生一人ひとりの状況や志向を把握している。全体へのメールマガジンの配信に加え、個別のニーズに応じた情報提供を行い、学生のキャリア形成を早期からサポートした。10:00～16:00の間はキャリアコンサルタント有資格者が在室し対面相談が可能である。またその時間外でも学生の希望に応じて対面・オンライン・メールでの柔軟な相談対応を行い、利用しやすい環境づくりに努めた。支援内容としては、「自己分析」、「適職相談」、「履歴書の書き方」(自己PR・学生生活で力を注いだことなどの書き方)、「企業・業界研究」、「インターンシップへの参加」、「応募書類添削」、「ビジ

ネスマナー」、「面接対策」、「筆記試験対策」「就職情報の提供」「進学・留学関連情報の提供」「内定後のフォローアップ相談」などである。

③ 早期対応と信頼関係の構築

入学後ガイダンスにてキャリア教育講座を実施し、「進路希望・アンケート」を通じて学生の志向を把握。それを基に全員面談を行い、進路希望の確認だけでなく、信頼関係を構築し、相談しやすい環境を整えた。教員志望の学生には、希望進路に関連した学童保育指導員の短期アルバイトやボランティアを紹介し、教職担当教員とも連携を深めることでより実践的な支援を展開した。

④ 教員希望者支援

教職担当教員との連携をさらに深め、私学教員・臨時任用・非常勤講師などの求人情報を共有し、スピードをもって卒業生も含む人材の推薦なども行っていった。また、現在は教職における採用面接でも、ストレス耐性や柔軟なコミュニケーション力などがより重視される傾向にある。そのため、キャリア支援センターでも模擬面接を積極的に行い、実践的な指導を強化した。

⑤ インターンシップ提携企業との親交

音楽療法を積極的に取り入れているデイケア老人福祉施設・学童クラブ・児童館運営などの事業を行う企業 2 社と連携し、音楽療法および学習補助・介護補助などを行うインターンシップの参加を呼び掛けている。また、一般企業のインターンシップはナビサイト主催のインターンシップイベント情報を提供し、学生が多様な業界を体験できるよう機会を促している。

<中学校・高校>

1) 広報活動の強化

① 生徒募集活動の実施

- (ア) ミニ文化祭「オープンスクール」や中学受験生には初見の方を限定にミニ説明会を実施。
- (イ) 中学受験は、5月～7月中心に、高校受験は、7月以降、特に10月～1月、本校での説明会を行った。
- (ウ) 外部相談会はある程度精選し、参加数を絞った上で参加した。

結果、中学入試は、受験者が15名程度増加した。日能研の受験者は増え、四谷大塚からの出願者もいた。合格者平均点は、例年よりも20～30点増加した。また、普通コース入学生は前年度より5名増加した。

高校普通科受験に関しては、総合進学単願が大幅に増加した。都立との差別化をPRしつつ、併願者でも魅力ある学校であることをアピールしたい。また、令和6年度は卒業生から東京大学をはじめ、国公立6名・早慶上理も多数合格がでたため、自分の希望する進路を突き詰めた結果、実現した進路であることを宣伝したい。

② 塾訪問・学校訪問

- (ア) エデュケーターサポート社の塾訪問代行のサービスを取り入れ、年間600塾以上を訪問させた。
- (イ) 中学校訪問は、各教員の担当を3校にし、年間最低2回の訪問を実施した。特に、広報室の教

員には積極的に塾訪問をした。

(ウ) ena, 首都圏模試、四谷大塚、V 模試、北辰模試への会場貸し出しを行ったことで出願増加にもつながった。

#### ④ 中学校音楽コース、高等学校音楽科生徒募集の実施

学内の行事、演奏会など外部受験生へ広報しながら募集活動を行った。また、問い合わせのあった方々を「体験レッスン」へと導き、実技担当の先生方にレッスンしていただいた。

短大入試広報とも連携して「夏期・冬期・春期音楽受験講習会」を実施し、本校へ受験希望の方たちへ、基礎科目や実技レッスンを受講してもらった。

広報の方法

ア 学校 HP での音楽行事の掲載

イ 学校ブログでの掲載

ウ 学校 SNS での告知

エ 音楽楽器店でのチラシの配布

オ 小学校・中学校への学校案内発送

カ 卒業生への学校案内発送

キ 受験生対象の学校説明会や外部説明会や個別相談などの実施

ク 各種行事を通しての広報

各種学内演奏会、外部との連携演奏会、外部講師を招いての公開講座また公開レッスン等の開催時に来場者への資料の配布。個別相談の対応。

卒業生

洗足学園音楽大学 総合型 2 名 (声楽、ギター) 進学

入学生

中学 5 名 (ピアノ 3 名 ヴァイオリン 1 名 フルート 1 名)

高校 4 名 (ピアノ 3 名 声楽 1 名)

## 2) 学力レベル向上への取組み

- ① 「探究的な学び」を教育の軸に「基礎的・基本的な知識・技能の習得」、「課題を解決するための思考力・判断力・表現力」、「主体的に学習に取り組む態度」といった学びの三要素を、あらゆる教育場面において意識できるよう、多くの対話機会を設けることに重点を置いた。
- ② 受験学年における指導  
全員 5 回以上の対話、多い生徒では年間で 40 回を超える対話を実施した。その結果、四年制大学への進学率は 87.4%、短期大学 1%、専門学校 5.7%、受験準備が 7.9%となった。
- ③ e ラーニングへの支援と学びに対するヒアリング、コーチング  
e ラーニングによる学びの到達度の把握と基礎力や応用力の向上を支援する対話機会の構築を徹底した。
- ④ 外部連携の実施  
東京大・慶應義塾大・産業能率大・桜美林大との高大連携プログラム、ベネッセ・リクルート・鹿島との産学連携プログラム、PLIJ・未来の教室・SDGs コース(慶應三田会)との次世代教育プログラム実施、全国各地の高校との越境プログラムなど、幅広く学校外連携を実施した。

- ⑤ ALCO 検定対策講座、サマースクール・ウィンタースクールの実施
- ⑥ 外部専門家による放課後チャレンジ講座（20 講座）実施
- ⑦ 各種検定の実施  
各教科で学ぶ力の到達度を測る検定を各種実施した。英語検定、GTEC、漢字検定、数学検定、ニュース検定、プログラミング検定他
- ⑧ 自学自習の構築  
生徒の自習を促す環境として、放課後自習スペース ALCO (After School Learning Commons) 運用を継続した。全校生徒の 84%が利活用、全体の主体的学習度も改善している。
- ⑨ オリジナルで作成した「SAKURA 手帳」の活用  
自らスケジューリングやタスク管理を行っている。
- ⑩ 「Classi」、「スタディサプリ」自学支援オンラインツールの活用

### 3) 教員の指導力強化

#### ①授業見学の充実

日常的に教員相互の授業見学を行うこととした。新任教員だけではなく全教員が効果的に経験を積み、能力を向上できる機会を作った。さらに、新任教員研修として行っている授業公開以外にも全教科に公開授業を実施してもらい、各教科での取り組みを教科間で共有し、教科を越えて授業作りや評価のつけ方など継続的に検討できる場を設けた。

#### ②教員研修への参加促進

私立中高協会や私学財団、塾等の外部機関が主催する研修やセミナー、研究会等への積極的な参加を促進し、多くの教員が研修等に参加した。内容は、職員会議で発表し、他の教員と情報共有を行った。

#### ③「探究科」の設置

中学のフィールドワーク・卒業研究、高校の探究学習について研究・実践を行った。教員、生徒とともに何ができるか時間をかけて検討した。

### 4) 生徒指導の充実

#### ①組織的指導体制の確立

組織的指導体制の確立については、現場の最先端である担任が孤立することのないよう、生徒指導案件では審議の段階から度々会議を開いてコンセンサスを図り、指導的場面では生徒指導部と学年、担任で連携し、生徒指導部が面談の方針や内容などを統括して行った。

#### ②講演会の実施

SNS におけるトラブルや違法行為、いじめ事案、誹謗中傷に関する講演会を実施した。

[生徒会行事]

| 実施日              | 行事名                | 対象       |
|------------------|--------------------|----------|
| 4月9日(火)          | 新入生オリエンテーション・部活説明会 | 新中1・高1   |
| 4月11日(木)         | 自転車安全教室            | 自転車通学希望者 |
| 6月7日(金)          | 体育大会               | 全校生徒     |
| 9月21日(土)・22日(日)  | 桜鏡祭                | 全校生徒     |
| 10月28日(月)～31日(木) | 生徒会選挙              | 全校生徒     |

## 5) 生徒の健康と安全

- 1 校内の救急体制の整備のため、下記取り組みを行った。
  - ① 健康上注意が必要な生徒の共有  
保健調査票や健康相談から実技教科などで配慮が必要な生徒について、校内で共有した。
  - ② 食物アレルギーの知識の普及・研修会の実施  
食物アレルギーのある生徒を共有した。職員会議で食物アレルギーの緊急時の対応を確認した。
  - ③ 救命救急講習会の実施  
教職員・生徒希望者対象の普通救命講習会を7月に実施した。
- 2 健康教育として、専門機関による出張講座を実施  
高校2年生 1月 HIVエイズ予防啓発講座 台東保健所主催 NPO 法人ふれいす東京
- 3 特性のある生徒や不登校生徒に対する組織的な支援体制を構築  
中学生・高校1年生の配慮を要する生徒について、担任からの報告のもと、月1回の情報交換会（サポート委員会）を管理職、中学・高1学年主任、養護およびスクールカウンセラーで開催し、対応について協議した。
- 4 校内をはじめ課外活動や宿泊行事における感染症対策を実施  
宿泊行事前の健康調査や学校医健診を実施した。感染症流行期には学級閉鎖（自宅学習）措置をとった。

## 6) 中学校音楽コースおよび高等学校音楽科生徒によるコンサート

令和6年度に実施した中学校音楽コース、高等学校音楽科生徒出演の主な演奏会は下記の通り。

〔中学校音楽コース・高等学校音楽科生徒による主なコンサート〕

| 実施日       | 演奏会                        | 会場          |
|-----------|----------------------------|-------------|
| 5月11日(土)  | 中二・高二演奏会                   | 飛行船シアター     |
| 6月22日(土)  | 高等学校音楽科<br>植田克己先生ピアノ公開レッスン | 飛行船シアター     |
| 9月21日(土)  | 桜鏡祭演奏会                     | 飛行船シアター     |
| 11月29日(金) | 中高総合演奏会(中学音楽コース・高校音楽科)     | 飛行船シアター     |
| 12月14日(土) | 高3音A組 演奏研究発表会              | アンサンブル室     |
| 2月14日(金)  | 高校卒業演奏会                    | 飛行船シアター     |
| 3月19日(水)  | 中学卒業演奏会                    | 飛行船シアター     |
| 3月27日(木)  | 台東区高齢者施設訪問演奏               | プレザングラン台東谷中 |

## 7) 中学校国際コースの取り組み

令和6年度よりスタートした中学校1年国際コースの取り組みは下記の通り。

〔中学校国際コースの主な取り組み〕

| 実施日      | 行事                 | 場所     |
|----------|--------------------|--------|
| 4月26日(金) | 校外学習               | 上野公園周辺 |
| 6月12日(水) | 国境なき医師団 井田 覚 様 講演会 | 多目的ホール |

|                                            |                                  |                                       |
|--------------------------------------------|----------------------------------|---------------------------------------|
| 7月23日(火)～<br>24日(水)<br>8月20日(火)～<br>23日(金) | サマースクールを実施                       | 901 教室                                |
| 9月21日(土)～<br>22日(日)                        | 桜鏡祭 (中学企画) 動画作成・発表:「国際コース」の一日    | アンサンブル室                               |
| 10月8日(火)                                   | 特別展「昆虫 MANIAC」見学                 | 国立科学博物館                               |
| 10月30日(水)                                  | 全生庵 平井 正修 様 講演会                  | 901 教室                                |
| 11月6日(水)                                   | 校外学習 アーバンハイキング                   | 日比谷～北の丸公園～外濠公園～国立競技場～新宿御苑             |
| 11月14日(木)                                  | 国宝展示「元永本古今和歌集」鑑賞                 | 東京国立博物館 (本館)                          |
| 12月4日(水)                                   | 「モネ展」見学<br>Music Week に先立って実施    | 国立西洋美術館                               |
| 12月16日(月)<br>～18日(水)                       | Music Week<br>マイケル・スペンサー先生をお迎えして | 901 教室および多目的ホール<br>*最終日は保護者参観のもと、演奏発表 |
| 2月17日(月)                                   | 校外学習～長距離走(2k/4k/6k)              | 上野公園                                  |
| 3月26日(水)～<br>28日(金)                        | スプリングスクールを実施                     | 901 教室                                |

### 国際コース広報活動について

令和6年4月、国際コースに6名が入学し、その後2名の転入学者を迎え、第一期生は8名であった。

生徒募集活動としては、体験会8月を除く毎月設定し、学校説明会や施設見学も合わせて行っている。加えて、コンタクトがあった方々への個別相談を通し、きめ細かな対応を繰り返し行ったことで、第一希望として本校を希望する方が前年度より格段に増えた。帰国生やインターナショナル・スクール在籍者からの問い合わせが寄せられることから、転編入を重視している旨の周知を図っている。

広報ツールは、ソーシャルメディアを積極的に活用し、特に画像や動画を多用している。日々の生徒の様子を届けることで、入学後の学校生活をわかりやすく伝えている。また、普通コースの広報活動を手本に、同じイベントに参加する機会を得、国際コースのPRを行っている。同様に短大の入試広報担当者からも助言を受けている。その他、出版社からの取材や国際コース紹介ビデオのウェブサイト公開等も実施した。

塾訪問については、普通コースと同様にエデュケーターサポート社の塾訪問代行のサービスを取り入れ、広報担当者と連携し、国際系の塾を中心にアプローチしている。インターナショナル小学校の希望により、授業公開も実施した。

以上